

## プーチンの敵とはだれか

*Kalle Kniivilä*

“La malamiko de Putin”

Mondial、2019、158p

2022年2月24日、ロシアのウクライナ侵略が始まった。以来、爆撃で廃墟と化した市街地の光景や被災者、避難民の姿をニュースで見ると暗然たる思いにとらわれる。なぜ他国を公然と侵略し、人々を殺害する所業が21世紀に許されるのか、ロシア国民はいつまで独裁者の暴走を許すのか、なぜロシア国民から戦争反対の声が上がらないのか、と疑問は尽きない。しかし、徹底的な情報統制によってロシア国民の大多数は真実を知らされておらず、また、戦争反対の声を上げれば容赦なく弾圧されるのだとも指摘されている。ニュースは、デモ参加者に対する警察官の弾圧の様子を伝えている。

そうした状況にもかかわらず、ウクライナ侵略以前からプーチン批判の先頭に立ってきた人物がいる。本書の主人公のアレクセイ・ナワリヌイである。彼は2020年8月20日、シベリアのトムスクからモスクワへ向かう飛行機のなかで意識を失い、ベルリンに搬送されて、病院で神経剤のノビチョクによる中毒だと診断された。ベルリンで治療後、2021年1月ロシアへ帰国し、直ちに逮捕された。それを承知のうえで、それでもあえて帰国した勇気が多くの人々を驚かせた。

彼の名前はニュースでしばしば目にしていたが、本書の刊行により、その詳しい経歴や主張などについていち早く、それもエスペラントで知ることができるのはありがたいことである。

著者は、彼のトムスクでの行動に始まり、毒殺未遂を経て帰国するまでの経緯を詳しくたどる。あわせて彼の個人史（1976年生まれ）や、これまでの政治活動、法廷闘争、ロシア国民のナワリヌイへの対立する評価などについて記述している。彼が全国に設立した支部のネットワーク、反汚職基金（FKB）の活動、ソーシャルメディアを通じた広報活動などについても詳しい（とりわけ、取り巻きがプーチンのために建てた贅を尽くした宮殿を「世界最大の賄賂」だとして暴露した動画は有名になった）。

彼は、ブログで、あるいは法廷でプーチンを公然と批判してきた。2011年に、与党の統一ロシアを「詐欺師と泥棒の党」と呼んだことはよく知られている。ある政治学者の指摘によれば、ロシアの体制は3本の足、すな

わち金と嘘と弾圧とで立っている (p135)。ナワリヌイの支持者は「毒を盛られたのはナワリヌイだけではない。ロシア社会全体が嘘によって毒されているのだ」と指摘する (p106)。これに対して、ナワリヌイが常に強調するのは真実と自由である。獄中の彼のことが本書の最後に引用されていて感動を呼ぶ。「鉄の扉が私の背後で大きくきしみながら閉まる。しかし、私は自分を自由な人間だと感じる。… 真実はわれわれの側にある。自由であれ」(p142)。そうした表現に権力を恐れぬ強さと言葉の力を感じる。

著者はこれまでも市民や政治家、活動家たちへのインタビューを重ねることで、ロシアの政治、社会の状況を浮き彫りにし、それを明晰なエスペラントで記述してきた。“Homoj de Putin” (2014) では、プーチンの熱心な支持者たちに取材して、彼らの生活と意見をさぐっている。“Krimo estas nia” (2015) では、2014年のロシアによるクリミア併合について、ロシア人、ウクライナ人、クリミア・タタール人にインタビューを重ね、事件の意味を多面的に照射している。“Idoj de la imperio”

(2016) では、ソ連が解体し、バルト三国が独立した後に、そこに留まった、いわゆる残留ロシア人の置かれた状況を追求している。本書を含め、いずれもウクライナ侵略以前に刊行されたものだが、現在のロシアの状況を考えるにあたって有益な示唆を与えてくれる。

著者は、フィンランドのジャーナリストにしてエスペランティスト。コロナ禍のため直接取材ができず、ZoomやSkype、Messengerなどを駆使して関係者にインタビューして本書を執筆した。本書はニューヨークにあるMondialから刊行され、同時にスウェーデン語版が刊行された。なお、ドイツとイギリスの若手研究者3名の共著により『ナワリヌイ—プーチンがもっとも恐れる男の真実』(NHK出版、2021年)が刊行されている。比較して読むと興味深い。

最後に。本書は2021年6月までの状況を伝えているが、その後、ロシアの裁判所は2022年3月22日、ナワリヌイに懲役9年の判決を言い渡した。彼はウクライナに侵攻したプーチン政権を「戦争犯罪人たち」と非難し、政権のプロパガンダに対抗するため、SNSを通じた情報戦を獄中から呼びかけていると報道は伝えている。

(La Movado 2022年6月号掲載。なお、転載にあたって一部表現を改めた)